



# 「活着ていることわざ」

船橋市議会議員

神田 廣栄 (かんだひろえい) 市議会報告

【事務所】 船橋市前原西8-24-8 ☎490-3333 FAX 465-7117  
Eメール hiroei@muc.biglobe.ne.jp  
ホームページ http://www.hiroei.jp

## 二の足を踏む・仰いで天に愧(は)じず

【二の足を踏む】◇ためらって、しりごみをすること。

- ・「二の足」は、二歩目のこと。一歩目は踏み出したが、二歩目をためらう、の意から。

【仰いで天に愧(は)じず】◇身に少しもやましいところがない、ということ。

- ・「孟子 尽心 上」の「仰いで天に愧(は)じず、俯(ふ)して人に (は)じざるは二の楽しみなり (上を見ても天の神に恥じることなく、下を見ても人々に恥じることがないのが第二の楽しみ)」

今年はエルニーニョ現象により冷夏が予想されていますが、5月末から連日暑い陽気が続いています。体調管理にはご留意ください。

さて、市議会は5月26日から6月24日まで開会しています。私にとって吉報ですが、以前から批判してきた姉妹都市のオーデンセ市への議員団派遣が中止になりそうです。理由は、派遣するには議案として議会承認を受ける必要があったのですが、「名前を出すと来年の選挙に不利になるので」ということで、手を挙げていた議員が『二の足を踏んだ』からだ、という話が聞こえてきました。税金の無駄遣いをしないですみそうです。



今回は、マンション問題について書きます。自宅周辺に高層マンションが建設されて喜ぶ人はいません。しかし、いくら「建設反対」を叫んでも、都市計画法や建築基準法に則って許可を得たものは建築されてしまいます。

議員がマンション問題に関与する場合は住民側に立つのが通常です。しかし私は、住民側からは事業者寄りだと批判されることを覚悟の上で、住民と事業者の双方の立場で参加することにしています。

事業者は許可を得て、粛々と建設工事をしていけば、マンションは完成してしまいます。私は、どこのマンション問題に関しても、住民の方々に「あなたがたの要望の全てはかなうものではありません。少しでも事業者に要望をかなえてもらうため、譲歩してもらうために努力します」ということで立ち会いをさせてもらい、意見を言わせてもらってきました。

よく考えれば単純なことなのですが、なかなか住民側の理解



を得るのは難しいものです。住民の要望が100%通らないと「何だ、あの議員は力がないなあ」なんて言われてしまいます。

住民の要望を強く事業者に言うことは簡単です。しかし、いくら強く言ったからとて結果が伴わなければ言わないことと一緒です。

議員の中には「事業者は利益追及しているから悪人だ」みたいなことを言う人がいます。

事業者は悪ではありません。事業者は事業を行うことにより安定した会社経営を行い、多くの社員の生活を支えているのです。利益を追及しないのは「無償ボランティア」と言います。小さな商店も大会社も利益追及して成り立っています。

私は、事業者に大きく利益を損なわない程度で、住民の要望をひとつでも多く聞いてもらい実現させることが大事なことだと考えています。

現在、あるマンション問題に拘わっています。住民の方から「是非お願いします」ということで、最初の説明会から参加させて戴いています。

事業者には住民の要望として、5階機械式立体駐車場を平置きに変更してもらったり、日影の影響のある家には相当の弁償をすることを確約してもらったりしました。その他にも様々な住民要望を事業者に話して、対応をしてもらっています。

許可が下りた昨年末には、「事業者を束縛するためにも、早く工事協定書を締結したほうがいい。事業者は協定書がなくても工事を進めることができるのだから」と話して、双方の話が煮詰まってきました。

事業者には「早々に協定書を締結しなさいよ」と攻めていたら、事業者からは「住民代表者がいいかげんで日程を話し合うことができない」と困っている様子が伝わってきました。協定書が締結できなく半年近くになろうとしています。

もっとも、その間に住民代表者側から市に「調停依頼」を出しました。しかし、調停要望の多くは、住民と事業者が数回の説明会を経て積み上げたものを無視して、当初の住民要望を述べたものでした。誠意をもって対応してきた事業者は調停に応じず、調停は不調に終わりました。当然の帰結です。

住民代表者というものは、住民全体のことを考慮し調整するものであり、相手方を誹謗するものではないと思います。そんなことを言っても何の解決にもなりません。その間、工事は着々と進んでいます。無駄な時間を費やしたと思います。

そんな方々に「神田市議は何の立場で来ているの」とまで言われてしまいました。私がよほど邪魔なののでしょうか。

『仰いで天に愧(は)じず』私は、多くの善良な方々に、少しでも要望をかなえてもらうために引き下がるわけにはいきません。

